

第106回 全国高等学校野球選手権大会

西東京大会 2回戦

2024年7月10日(水)

球場 S&D昭島スタジアム		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	計
プレイボール 12:41	田柄	0	0	0	0	0											0
ゲームセット 15:02	筑波大駒場	4	0	5	11	X											20

先攻	田柄	後攻	筑波大駒場	備考
投手	青木	投手		【二回戦】5回コールド
捕手	鬼塚	捕手		
本塁打		本塁打		
三塁打		三塁打		
二塁打		二塁打		

「TAGARAの野球観」で「みんなで力を合わせる楽しさ」を体現！

9年ぶりの単独出場。田柄にとって悲願の試合だった。先発の青木琉人（りゅうと）（2年）は一回に4点を失っても、すぐ気持ちを切り替えた。3年生のマネジャー・平子聖奈に勝利を届けたい――。二回には直球に変化球を絡め、2者連続三振した

2年前、部員は当時1年の平子と2年の選手の2人だけだった。グラウンドは腰の高さまで雑草が伸び、地面はでこぼこ。ネットなどの器具も金属が腐食していた。平子らは一人でも多くの新入生に入ってもらおうとグラウンドの草を刈り、半年ほどかけて整備。同級生に「やっても無駄」と言われたこともあったが、そんな雑音をはねのけてきた。平子の姿に打たれ、学校は投球マシンを買ってくれた。他校と連合を組んで出た昨夏の大会後、大久保壮拳（まさたか）監督は、主将になった青木らに聞いた。「お前らの目標って、なんなの」。



選手たちは「聖奈先輩の最後の夏に、単独チームで出て勝つこと」と答えた。平子の思いはしっかりと後輩に届いていた。それから青木たちは、新たな仲間や助っ人を求め、校中をかけずり回った。そして夏の大会前、11人がそろった。とはいえ、わずかでも選手が欠ければ出場はかなわなくなる。一度抜けた連合チームに戻るのも難しい。平子は練習中も選手と一緒に走り、誰よりも声を張り上げ選手を鼓舞した。願いがかなった夏の大会の初戦。今の田柄があるのは、平子のおかげ。だから、青木は試合に勝って平子を喜ばせたかった。打たれても打たれても、最後までマウンドに立った。試合後、平子は青木に声をかけた。「ありがとうね」。敗れたけれど、平子が見てきた中で一番の全力投球だった。青木は思う。

チームが大好きな平子のことだから来年もスタンドから見ていてくれるだろう。来年こそは。=S&D 昭島（西田有里）

<顧問よりご挨拶>

記事の通り、私たちにとって悲願の田柄高校野球部単独出場でした。この夏、2015年から止まっていた時がようやく動き出しました。学校関係者の皆様には、本当に感謝しております。

昨年、連合チームでは14年ぶりに勝利しましたが、単独出場では2008年以来、勝利から遠ざかっております。困難が待ち受けていると思いますが、来年は「17年ぶりの夏1勝」にこだわって、スタッフ一同頑張ります。これからもTAGARA BASEBALL TEAMをよろしくお願いいたします。

第106回 全国高等学校野球選手権大会

西東京大会 2回戦

2024年7月10日(水)

あたたかいご声援をいただき、ありがとうございました！

